

# 【（社福）東京都社会福祉事業団】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

## 活用戦略で定めた「団体の将来像」

### 支援困難な被虐待児、障害者などの支援に高い専門性を発揮するプロフェッショナル集団

#### 重要課題 ①

特別な支援を必要とする子供や家庭、障害者に対する高度なケアの提供を通じて培ってきた支援技術等の普及に向け、民間の福祉施設の職員派遣を受け入れるなど、福祉人材育成を図るフィールドとしての機能強化をいかに進めていくか

#### 検討の状況や今後の方向性

- 事業団では、これまで蓄積された、強度の行動障害がある知的障害者への支援をはじめとする高度で専門的な支援技術について、外部の団体が主催する各種会議、研修などを通じて、情報発信を行っている。
- また、先駆的な施策として取り組んでいる「連携型専門ケア機能モデル事業」においては、民間施設からの見学者を積極的に受け入れるとともに、外部のセミナーで取組を発表するなど、支援技術の普及に努めている。
- 今後、事業団が福祉人材の育成を図るフィールドとしての役割を果たしていくため、都と連携し、引き続き先駆的な施策に積極的に取り組んでいくとともに、専門的な支援技術や理論について、指導的な役割を果たすことができる人材の確保・育成に努めていく。

## 【（社福）東京都社会福祉事業団】の課題と今後の方向性

<b>重要課題</b> ②	将来にわたって安定的に質の高いサービスを提供し続けるため、介護・福祉分野における人手不足が深刻化する中、人材の確保に向け、働き方改革をいかに進めていくか
<b>検討の状況や今後の方向性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 事業団では、毎年度100人以上の職員採用が必要であり、施設運営に必要な職員の確保が極めて困難となっている。</li><li>○ 将来にわたって安定的に質の高いサービスを提供し続けるためには、職員が働きやすい職場づくりに努め、人材を確保・定着させていく必要がある。</li><li>○ 事業団では、利用者支援における職員の業務負担軽減などを目指し、高齢分野で活用されていたバイタル等を常時チェックし急変を自動で知らせる「見守り支援システム」を、障害者支援施設で試験導入するなど、民間企業と連携した取組を行っている。</li><li>○ 利用者と向き合う時間をより多く確保し、質の高いサービスを提供し続けるため、福祉現場のIoT、ICT化を更に進め、支援記録作成の作業時間を短縮するなどの働き方改革に取り組んでいく。</li></ul>